

大名の蔵刀と五ヶ伝

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 令和元年11月27日(水)～
令和2年1月19日(日)
- 休館日 12月5日、12月28日～1月4日

武家にとって、刀剣は武の象徴として重んずべきもので、宝物として代々伝承されたり、重要な儀礼等での贈答の品として大名間を行き来したりしました。

こういった「御道具」としての刀剣は、主に室町時代以前に作られた「古刀」が用いられてきましたが、この古刀の主要な産地として有名なのが大和・山城・備前・相模・美濃の五カ国で、その産地独特の作風は、近代には「五ヶ伝」とよばれて刀剣鑑定の要諦となりました。「五ヶ伝」の用語それ自体は古いものではありませんが、室町時代にはすでに「大和物」「山城物」などの呼称があり、産地による作風の別は認識されていました。

今回は福井の殿様・越前松平家が所蔵していた刀剣を中心に、「五ヶ伝」の作品を紹介いたします。

山城国

794(延暦13)年の遷都以来、1,000年以上にわたり政治・文化の中心であった京の都を擁する山城国。現在の京都府南部にあたります。その山城の刀鍛冶はやはり京を中心に活躍したものが多く、「京物」などと呼ばれてきました。その作風も大方において優美さ・上品さが持ち味とされています。

京物の最古の作は平安時代後期(10世紀末頃～)とされる有名な三条小鍛冶宗近があげられ、これにつづいて兼永・国永らの五条派、鎌倉時代には粟田口派・来派、南北朝期に長谷部派、ついで室町時代にかけては信国派といった刀工集団が活躍しています。

(刀 無銘 伝 来国光 (福井市春嶽公記念文庫 当館蔵))



大和国

古代国家の中心地であり、鍛造の技術がいち早く発達した地域である大和国(現在の奈良県)では、平安時代以降多くの大寺院が勢力を持ち、僧兵など軍事力も保持する存在となっていました。こういった寺院組織への武器の供給を担ったのが大和の刀鍛冶だといわれています。優美さを誇る山城物に比較すると、実用を重んじた質実剛健で古典的・保守的な作風が強いといわれています。

大寺院は地方に末寺や荘園を多く持っており、その関係を通じて大和国から地方に刀工が移り、作風も伝播していきました。南北朝期以降、越前・加賀で活躍した藤島派は、一般に京の来国俊の弟子という伝がありますが、作風的にはむしろ大和風に近く、大和鍛冶との関係も指摘されています。

(短刀 銘 アリハウシ (有法師; 越葵文庫 当館保管))



びぜんのくに 備前国

中国地方は鉄の産地を擁し、古来から鉄器製作の伝統を持つ地域で、中でも備前国（現在の岡山県東南部）は平安時代末期以降多くの刀工が活躍した地です。

その嚆矢とされる古備前物の刀工、友成・正恒・包平らは源平争乱の時代に活躍したと考えられ、続く鎌倉時代には一文字派が日本刀史上最も豪華絢爛といわれる刃文を生み出し、鎌倉時代中期から室町時代にかけては長船派が質・量ともに他の産地を圧倒しました。

(太刀 銘 包平 (藤島神社蔵 当館保管))



さがみのくに 相模国

鎌倉時代中期に、幕府のお膝元・鎌倉に備前あるいは京から著名な刀工を招いて作刀させたのが鎌倉（相州）鍛冶のはじまりとされていますが、相州伝とされる特色ある作風が確立されたのは鎌倉時代末期の新藤五国光からといわれます。新藤五国光を師とする正宗はその作風を発展させ、独特の地肌、リズム感のある刃文など独特の作風を確立しました。

正宗をはじめとする相州伝の作風は山城や備前など他の産地にも大きな影響を与えました。

(脇指 銘 相州住広正 / 宝徳元年十月日 (福井市春嶽公記念文庫 当館蔵))



みののくに 美濃国

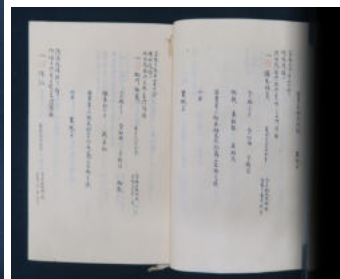
現在の岐阜県南部に当たる美濃国は五ヶ伝のうちでは最も新しい産地で、南北朝時代、大和から志津三郎兼氏、越前敦賀から金重がそれぞれ美濃国志津、関に移住して基礎を築いたとされます。实用本位の刀づくりが行われ、兼定・孫六兼元といった名工を輩出しました。また戦国時代には大量の刀剣需要に応じて刀の大量生産が行われました。桃山時代には関から越前に複数の刀工が移住し、「越前関」とよばれる集団を形成しています。

(脇指 銘 兼元 (越葵文庫 当館保管))

おん ほん とう き ぶく 越前松平家「御佩刀記録」

安政2年（1855）年に作成された、越前松平家が所蔵していた刀剣の目録です。歴代藩主が使用した刀、将軍家等から拝領した刀をはじめ、多数の刀剣類が太刀・刀・脇指・小脇指（短刀）・小道具・長刀・槍などに分類されて付属する拵とともに書き上げられています。藩主所用や拝領の品には五ヶ伝の刀が多く見られます。

(「御佩刀記録」(松平文庫 福井県文書館保管))



今回の展示

企画展 藤島神社のお引っ越し
令和2年1月22日(水)~3月16日(月)

展示解説シート No.127 令和元年11月27日発行
福井市立郷土歴史博物館 〒910-0004 福井市宝永3-12-1
電話 0776-21-0489 Fax 0776-21-1489
担当：松村知也 印刷 / 宮本印刷